

# 土木学会 建設マネジメント委員会 研究成果発表会(2006年度) 報告

2006年7月27日  
研究問題検討小委員会

## 1. 目的

土木学会 建設マネジメント委員会（委員長 廣谷 彰彦）では17の研究小委員会を設け、建設マネジメントに関する研究を行っている。これらの研究成果の普及に資することを目的とし、2005年度の研究小委員会の中から以降に示す7テーマの研究成果の発表会を開催した。

## 2. 概要

研究成果発表会の開催日時と発表プログラムは下表の通りである。

日 時：平成 18年 7月 27日（木）13：00～17：10

場 所：（社）土木学会 講堂

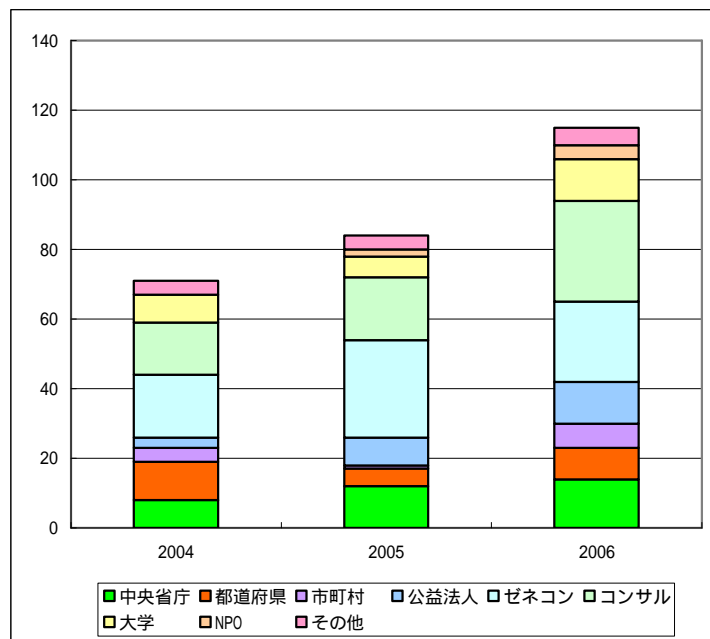
研究成果発表会(2006年度)		
13：00～13：05	開会の挨拶	建設マネジメント委員会 委員長
13：05～13：25	建設サービスの高度化時代における技術公務員（インハウスエンジニア）の役割と責務	技術公務員の役割と責務研究小委員会 代 表：中村 一平（金沢工業大学） 発表者：伊藤 昌勝（(株)ドーコン）
13：25～14：05	公共工事におけるマネジメント業務の具体的な業務範囲や、責任と権限等に対する適切な業務評価とフィーのあり方について	マネジメント業務評価研究小委員会 代 表：山本 幸司（名古屋工業大学） 発表者：諏訪 博己（前田建設工業(株)） 岩田 誠（前田建設工業(株)）
14：05～14：35	非対称情報下でのマネジメント研究小委員会 中間報告	非対称情報下マネジメント研究小委員会 代 表：田中 芳行（(株)竹中土木） 発表者：田中 芳行（(株)竹中土木） 串戸 均（首都高速道路(株)） 峯浦 孝雄（三井不動産(株)）
14：35～14：55	住民参加型地域施設マネジメントシステム構築に関する二、三の事例研究 - 中間法人資産所有と地元参加のファイナンス問題の研究 -	地域施設マネジメントシステム研究小委員会 代 表：春名 攻（立命館大学） 発表者：春名 攻（立命館大学）
14：55～15：15	組織変革を実践するためのリーダーシップのあり方	建設BM研究小委員会 代 表：本名 誠二（(株)アイ・エヌ・エー） 発表者：本名 誠二（(株)アイ・エヌ・エー） 中村 士郎（(株)竹中土木） 池田 将明（PMI 東京支部）
15：15～15：25	休 憩	

15:25～16:25	<b>インフラ PFI 事業のための技術的課題とその解決</b> (1) 道路関係事業における PFI 導入に向けたリスクマネジメント (2) 最新の民間参加型インフラ事業に関する国際動向	<b>インフラ PFI 研究小委員会</b> 代 表：宮本 和明（武蔵工業大学） 発表者：北詰 恵一（関西大学） 有岡 正樹（(株)熊谷組）
16:25～17:05	<b>社会資本マネジメントにおける合意形成と NPO</b>	<b>NPO 研究小委員会</b> 代 表：渡邊 法美（高知工科大学） 発表者：渡邊 法美（高知工科大学） 二宮仁志（大分県） 吉田理映子（NPO 法人 ハンズオン埼玉）
17:05～17:10	閉会の挨拶	研究問題検討小委員会 小委員長

### 3. 参加状況

研究成果発表会への事前申込（2006/07/26 迄）は 97 名の申し込みがあった。当日参加等も含めると最終的に 115 名の参加があり、前年度より 31 名（前年度比 36.9%）増加した。下図のとおり、区分別に見ると、都道府県・市町村、建設コンサルタント、大学関係者、NPO の方の増加が大きい傾向にある。

区分	2004	2005	2006
中央省庁	8	12	14
都道府県	11	5	9
市町村	4	1	7
公益法人	3	8	12
ゼネコン	18	28	23
コンサル	15	18	29
大学	8	6	12
NPO	0	2	4
その他	4	4	5
合計	71	84	115



- 参加状況の推移 -



－ 発表会当日の様子

#### 4. 発表会に向けた取り組み等について

##### (1) 発表会に向けた取り組み

- 本年度は、発表応募のあった7つのテーマ（技術公務員の役割と責務、マネジメント業務評価、非対称情報下、地域施設マネジメントシステム、建設BM、インフラPFI、NPO）の研究成果を対象に発表会を開催した。
- 発表会の開催案内は、「建設マネジメント委員」、「研究小委員会メンバー」、その他8つの機関に送付した。
- 発表会の約1ヶ月前には、建設マネジメント委員会のホームページに開催案内を掲載するとともに、次年度同様、建設関係の新聞各社へも開催案内を送付した。また、今年度より土木学会誌の会告（6月号）にも開催案内を掲載した。
- ホームページには前日までに講演用テキストを適宜、掲載した。
- 今年度より会場参加者へ成果発表会に対するアンケート調査を実施した。（調査結果は後述）

(2) 発表会を終えて

- 発表会開催後には発表会の発表内容が新聞記事に掲載され、広く一般の方への周知も図られたものとも思う。(インフラ PFI、マネジメント業務評価の研究成果は研究報告書の内容が一部掲載された。別紙。)
- 参加状況に関しても、昨年度大きく上回る 115 名(前年度比 36.9%)の方にご参加戴き、建設マネジメントに対する関心の高さを実感するとともに、研究成果の普及の取り組みとして、目的を達成できたものとする。
- また、アンケート調査結果によれば『成果発表会に参加し、参考になった』と回答された方が 78%を占め、多くの参加者の方に満足戴けたものとする。
- その一方で、発表会の開催時間を 5 時間で設定していたため、発表時間の調整により 1 種以外の小委員会の発表時間が短くなってしまった点は反省すべき点とする。次年度以降は本年度末の早い時点で発表希望小委員会を募集し、十分な時間を確保することを考える。
- 更なる研究成果の普及に向けて、本年度は実施できなかったが、『ポスターの製作・配布』、『新聞一般誌への案内』等も次年度に向けて検討してゆきたいとする。

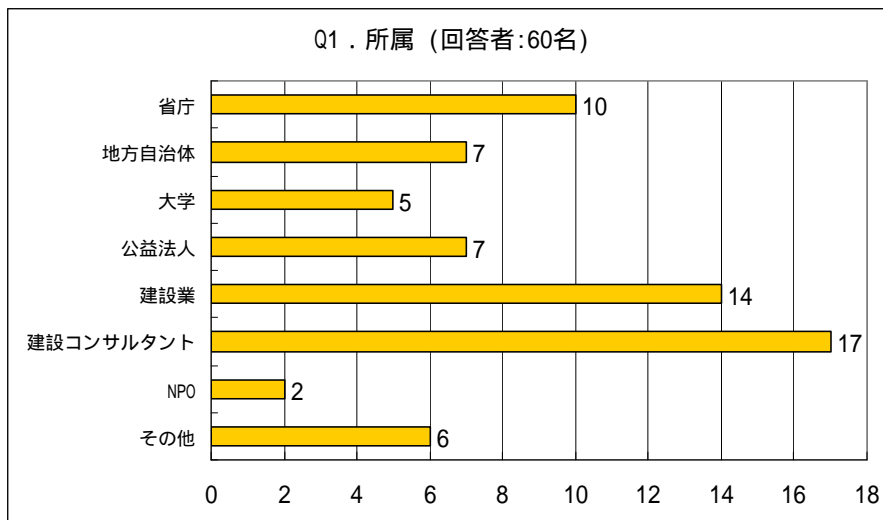
(3) 今後の方向性

- 今回の研究成果発表会より成果発表会に対するアンケート調査を実施した。本調査で得られた成果発表会に対する意見等を踏まえ、次年度以降の研究成果発表会へ反映してゆきたいとする。
- また、更に多くの方に研究成果を知って戴くために、ポスターの作成・配布や一般新聞社へのご案内等を実施することを考える。
- さらに、過年度同様、研究成果発表会は土木学会(講堂)において開催したが、将来的には個別の研究成果に対してニーズの高い自治体等での研修会(有料)を視野に入れて、活動を拡大していくことが重要とする。

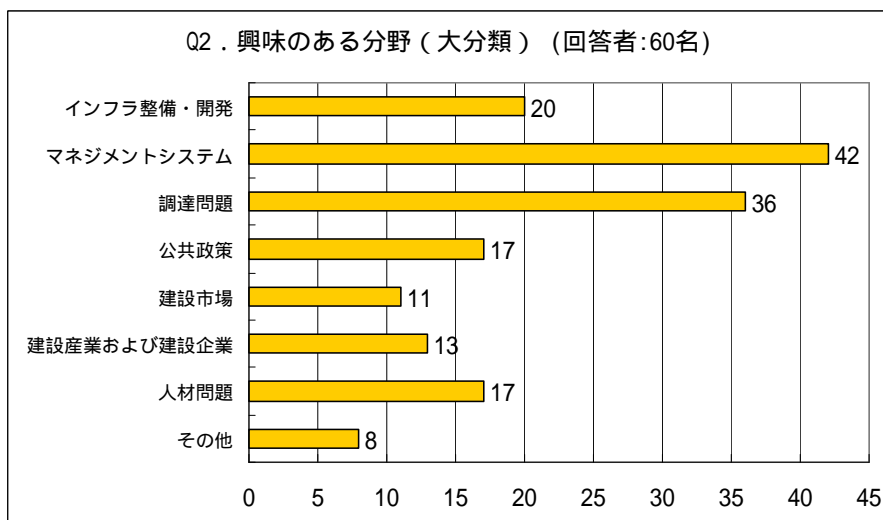
以 上

## 《 研究成果発表会 アンケート調査結果 》

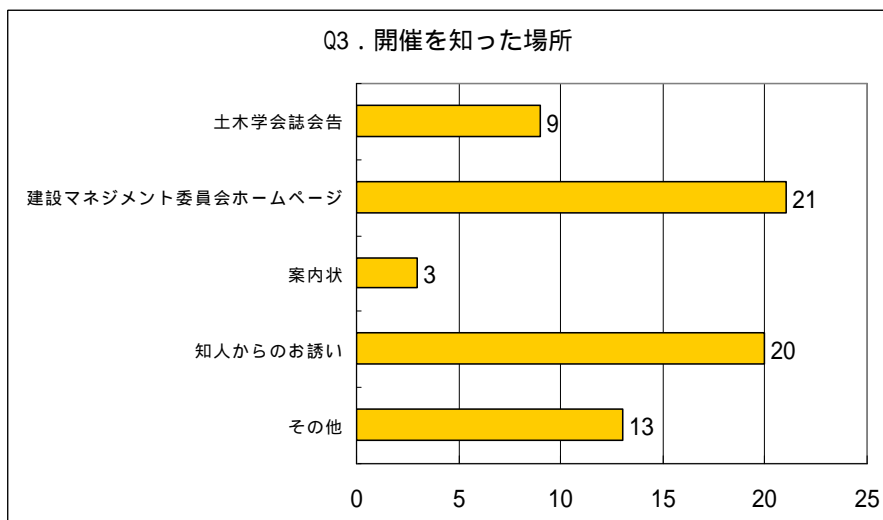
### (1) 回答者の構成



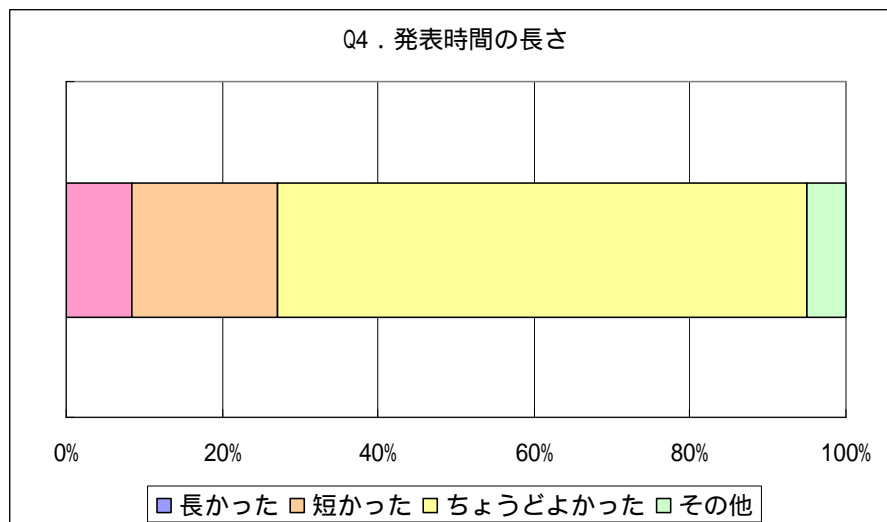
### (2) 興味のある分野 (大分類)



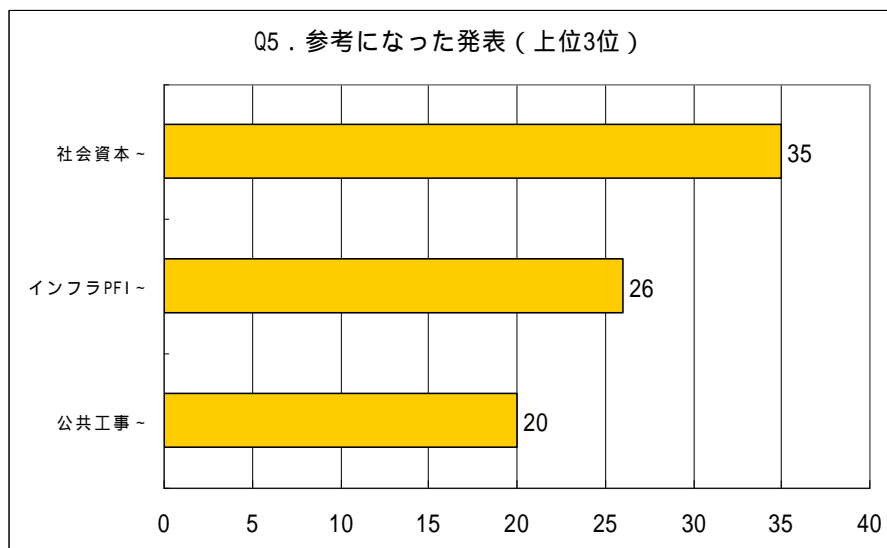
### (3) 開催を知った場所



(4) 発表時間の長さ



(5) 参考になった小委員会



(6) 参加目的の達成

